

みんなのた場



雄勝地区・上雄勝

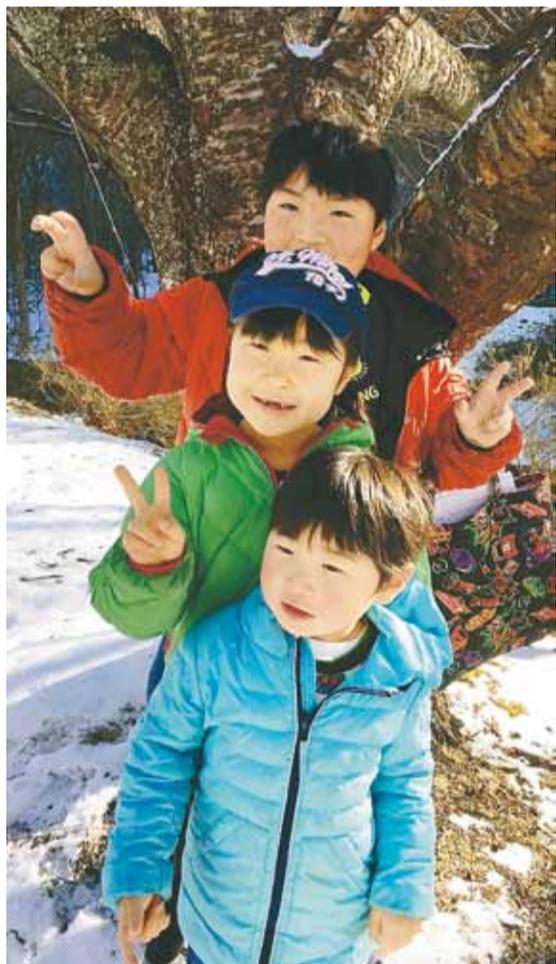
春日 胤樹忠君 (9歳・雄勝小3年)

李心ちゃん (7歳・雄勝小1年)

勇希忠君 (3歳・雄勝保育所)

海と山に囲まれた自然豊かな雄勝地区でたくましく育つ3人きょうだいで

長男の胤樹忠君は優しく頑張り屋で、今は苦手な歌や算数の計算を頑張つて



豊かな自然の中でたくましく育つ3人きょうだい

きです。カフェを営むお母さんの手伝いをよくします。「将来はパティシエになつて大好きなイチゴのスイーツをたくさん作りたい」と目を輝かせます。

末っ子の勇希忠君はおつとりしていて、いつも笑顔で場を和ませてくれます。パトカーや消防車が大好きで「大きくなつたら消防士になりたい」と元気に語り

ます。父常貴さんと母美千代さんは「元気に伸び伸び育つてほしいです」と3人の成長を楽しみにしています。

【文化財】

99

明治から3代で調査

宝ヶ峯遺跡をめぐる人々

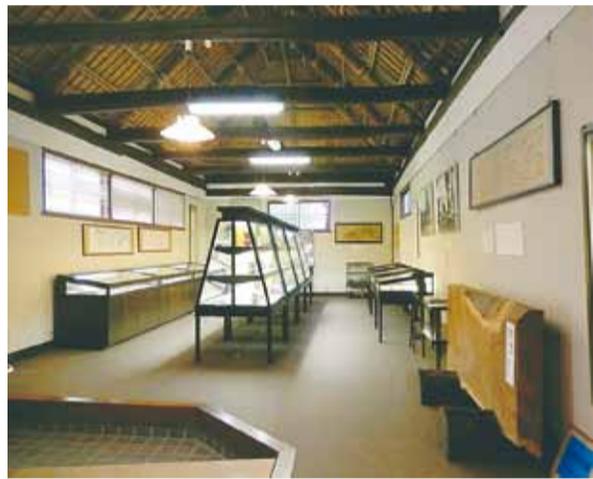
生涯学習課

北村字前山の丘陵上に広さ約2万平方メートルの宝ヶ峯遺跡があります。縄文時代から平安時代にかけて形成された遺跡ですが、主に縄文時代後期初頭から晩期初頭、その中でも特に後期中葉の遺物が大量にまとまつて出土しています。

この遺跡は明治43(1910)年、東北三大地主のひとつ、齋藤家の第九代当主善右衛門有成が土木工事の際に発見しました。善右衛門有成はもとも学問や文化に対して理解と関心を保持していたことから、現状を保存して専門家の指導を仰ぐこととし、人類学者坪井正五郎を招聘して、試掘を行つていきます。坪井は、



宝ヶ峯遺跡の分布図 ※国土地理院「地理院地図」利用の宮城県遺跡地図から



宝ヶ峯遺跡縄文記念館

「世に謂ふ瓦礫も字の宝」としてこの遺跡を「宝ヶ峯遺跡」と命名しました。なお大正6(1917)年、善右衛門有成は毛利総

七郎や遠藤源七と知り合い、沼津貝塚、南境貝塚の発掘に参加、また宝ヶ峯遺跡でも共同で発掘調査を行うなど、交流を深めました。第十代当主善右衛門有道は、遺跡発見直後の試掘調査に参加、縄文土器をはじめ、土製品、石製品など多数の遺物を採集しましたが、その後一時中断、しか

し調査の必要性を強調した県図書館職員山中樵の助言により大正3(1914)年に発掘調査を再開、昭和2(1927)年まで続けられました。調査の詳細は「寶峰石器時代遺蹟発掘日誌」に記録しています。第十一代当主養之助は出土遺物の整理を中心とし、「宝ヶ峯石器時代遺蹟の調

査」をテーマとした研究で「宝ヶ峯式土器」という縄文式土器の一標式を提唱した東北大学教授伊東信雄と調査報告書の刊行を目指していましたが、伊東の急逝によりかたがたせんでした。しかし、平成3年には「宝ヶ峯」を刊行(共著)、平成5年には自宅庭園(現国名勝齋藤氏庭園)の一角に宝ヶ峯縄文記念館を開館し、先代と先々代の業績を継承するとともに文化財の保存と活用を努めました。

※善右衛門有成は「財産は神仏よりの供託物にして私有物に非ず」の信念を持ち、学術研究助成事業、産業事業、社会事業を推進するために大正12(1923)年齋藤報恩会を設立、昭和8年(1933)には自然史博物館を開設しています。しかし自然史博物館は平成23年に閉館、齋藤報恩会は平成27年、解散しました。

キラッとパチリ

障害福祉課

渡辺あゆみさん 39歳
東京都日野市から派遣



人のつながり大切なチャレンジする、がモットーなので「別の自治体で働く機会は他にない」と思い、チャレンジしました。障害福祉計画の策定に携わり、間もなかつた1年になりました。

ます。業務だけでなく、石巻の人のつながりを大切に過ごしてきました。石巻に来て感じたのは、移住した方、NPOの方、応援職員、工事関係者など、熱い思いを持つた人がたくさん応援に来てくれることです。きれいな海やおいしい食べ物、人情など、魅力もいっぱい、牡鹿半島はすつかり気に入りました。

石巻焼きそば、6年生だけで作ったよ!!



7) 自分で作った焼きそばは格別で、苦手の野菜も一緒にべろりと平らげました。 園 学校管理課 (内線503

食育推進コーナー

山下小学校で9月20日、6年生が石巻独特の料理である「石巻焼きそば」作りをしました。給食の人氣メニューでもある石巻焼きそばを、自分で作れるようになることが目的です。

保護者も参加しましたが、手を出さず声掛けのみ。野菜を切り、麺を炒め、味付けするまで全て子どもたちが行い、それぞれ個性的な石巻焼きそばが出来上がりました。

まちの話題

ホタテを介して絆より強く

家庭教育学級第2回学習会「親子料理教室」が12月8日、雄勝小中学校家庭科室で行われました。

小学校全校児童と親、教職員合わせて45人が参加し、雄勝産のホタテを使ったホタテご飯とサケのホイル焼きを作りました。

講師の指導のもと、ホタテの殻むきや野菜のカットに苦戦している子どもたちに、親たちが優しく教える姿が見られました。料理を食べながらの会話も楽しめました。



雄勝地区

親子料理教室

河北地区

「上品の郷」みそか市

特産「河北セリ」人気集める

道の駅「上品の郷」で12月29日、年末恒例のみそか市がありました。

年末年始のごちそう用に、地元の新鮮な野菜や加工品などが販売され、中でも特産の「河北セリ」が人気を集めました。

河北セリは3月末ごろまで根セリ、その後、5月末ごろまで葉セリが販売されます。12月から販売している新名物「おでんバーガー」「ちくわ三兄弟」も長蛇の列を作り、にぎわいました。



下級生のリード方法を学ぶ

市子ども会育成会桃生支部のインリーダー養成研修会が1月13日、桃生文化交流会館で開かれました。

小学5年生約40人が参加。桃生ひまわりジュニアリーダーサークルの高校生2人の指導で、ボスとリーダーの違いを学び、遊びの中に潜む危険を事前に発見する訓練などを行いました。子ども会活動で下級生をリードするために大切なダンスやゲームも体験しました。



桃生地区

インリーダー養成研修会

河南地区

河南つくも大学

歌い、踊り、笑って講座修了

平成29年度河南つくも大学は12月13日、遊楽館で最後の講座と閉講式を行いました。

「歌って踊ってご健笑(勝)」をテーマに、日本笑い学会東北支部所属のマヨネーズ(阿部眞宜氏・阿部洋子氏)＝仙台市＝が講話しました。

歌や手遊び、言葉遊びなどを交えた話は、31人の受講生を終始笑わせていました。つくも大学は5月に開講し、健康講話や体操などに取り組んできました。



きりり整列 年頭に決意新た

市消防団牡鹿地区団の出初め式が1月6日、牡鹿中学校で行われました。

校庭での事前訓練や観閲の後、体育館であった式典には地区団員99人と来賓ら計約170人が出席。東日本大震災犠牲者への黙とう、亀山紘市長の告辞などに続いて、斎藤富嗣地区団長が「住民の生命と財産を守るため、今年も尽力します」と決意を述べました。優良団員ら延べ37人の表彰も行われました。



牡鹿地区

消防団牡鹿地区団出初め式

北上地区

「にっこり歳の市」

盛りだくさんの海鮮を販売

年越し用の食材を格安で提供する「にっこり歳の市」が12月23日、北上中学校体育館で開かれました。約20の業者が地元産のホタテやワカメ、トマト、大根などを販売しました。

豊漁のタコが多く並び、アワビのみそ漬けなどもあり、大勢の買い物客が買い求めていました。ステージでは、女川法印神楽や民謡なども披露され、地元温泉旅館のペア宿泊券が当たる抽選会もありました。



臼ときねで伝統文化を体験

石ノ森萬画館で1月1、2日に「マンガタンお正月2018」がありました。

餅つき大会や型抜き遊び、たこ揚げ大会などがあり、来場者は日本の伝統文化を体験しました。

臼ときねを使った昔ながらの餅つきは、子どもたちも大きなきねを持って挑戦し、笑顔があふれました。つくたての餅は来館者100人にごま味などで振る舞われました。2日は獅子風流も繰り出しました。



石巻地区

マンガタンお正月2018

石巻地区

観光情報センター「ロマン海遊21」

市役所1階へ移転しました

観光物産情報センター「ロマン海遊21」の機能が、1月から市役所1階に移転しました。

市産品のPR販売コーナーはロマン海遊21の時よりやや狭いものの、水産加工品や菓子類などのお土産品のほか、朝採り野菜や総菜などもあり、約1,000種類を販売しています。石巻観光協会スタッフが観光案内にも対応しています。営業時間は午前9時～午後5時半。土日・祝日も営業。

